通所透析患者に対する運動療法の有用性

～透析前リハビリで歩行可能となった症例を含め～

【目的】当院の通院患者の平均年齢は 66 歳であり、高齢患者も多い。各々身体機能低下により ADL 低下が進み、介助量増加・転倒を繰り返す患者も多くなっている。昨年 10 月より患者の ADL・QOL の低下予防の為、透析前に運動療法を実施した。本研究で、患者の身体状態の変化を追い、運動療法の有用性を検証した。

【方法】対象患者 10 名、透析前に運動療法実施。運動療法の内容は、各患者によって異なるプログラムを適用。経過を理学療法評価と KDQOL を使用し、観察した。

【結果】対象全員が ADL 向上し、歩行困難の患者 10 名中 6 名がリハビリ開始後に歩行距離が延びた。また、運動習慣のなかった患者全員に透析前のリハビリが習慣化された。KDQOL の結果も、10 名全員点数上昇した。

【考察】短期間で身体機能が向上した事は考え難く、リハビリ効果が現れたというより元来有していた機能が引き出されたと思われる。ADL・QOL 向上には、身体機能面だけでなく環境設定や心理状態も大いに関連してくることが確認される。